



キリギリスはなぜ鳴くの

鳴くのは仲間への合図

キリギリスやバッタは、うっそうと植物がしげった草むらで、生活しています。同じ仲間どうしがどこにいるのか、おたがいに姿も見えず、探すのもむずかしい環境です。近い仲間のバッタは、羽がりっぱで遠くまで飛べますが、キリギリスは、後ろ足でぴよんととびはねるぐらいで、あとは、しげみの中を歩き回っています。卵を産むために、同じ仲間のオスとメスが出会うのも、むずかしいのです。

そこで、成虫になったオスは、羽をこすり合わせて、ギースチョンとさかんに鳴くようになります。鳴き声でオスのいる場所がわかると、メスが近寄っていきます。オスどうしも、鳴き声で、おたがいにあまり近くに、かたまらないようにします。

キリギリスの鳴くしくみ

キリギリスは、左右の前ばねをこすり合わせて鳴きます。左前ばねの裏側に、ぎざぎざしたやすりのような部分があり、右前ばねの表側には、まさつ片とよばれるものと、それにくっついた発音鏡があります。この左右のはねの、やすり部分とまさつ片をこすり合わせて音を出し、その音が、発音鏡で大きくひびくようになっています。メスは、鳴きません。（監修・中山 周平）

